ほたるっ子

磐梯第一小学校
学校だより
NO. 8
R5. 4. 18
（文責:校長 菅家 篤）

ドリーム＆チャレンジ！ ～あいさつ・はっぴょう・なかまとじぶん～

学校の幸せづくりは はき物を揃えることから

下の詩は、はき物を揃えることが自分の心を正しくすることにもつながっている、ということを教えてくれる素敵な詩です。「だれかがみだしておいたらだまってそろえておいてあげよう」というところも、後から使う人を思いやる気遣いが感じられ、爽やかないい気持ちになります。

「はきものをそろえる」

はきものをそろえると　心もそろう
心がそろうと　はきものもそろう
ぬぐときにそろえておくと　はくときに心がみだれない
だれかがみだしていたら　だまってそろえておいてあげよう
そうすれば　世界中の人の心もそろうでしょう

藤本幸邦（ふじもと　こうほう）作

今日の全校朝の会で、子どもたちにこの詩を紹介し、次の話をしました。

この詩は、長野県にある円福寺というお寺の和尚さんだった藤本幸邦（ふじもとこうほう）さんという方が作った詩です。藤本さんがどうしてこのような詩を作ったのかをお知らせします。

今から８０年ほど前、日本は戦争をしていました。そして、その戦争が終わった頃、東京はたくさんの爆弾によって、焼け野原のようになっていました。そのような中、上野駅の周りには、食べ物や生活に必要な物を売るお店がいくつも並び、多くの人々が集まるようになっていました。しかも、大人だけでなく、戦争で親を亡くした子どもたちもたくさん集まっていたのです。その子どもたちは、着る服もぼろぼろで、多くの子どもたちが裸足でした。さらに、行き交う人々に物乞いをしたり、スリや置き引きなどをしたりして暮らしていたのです。それを見た藤本さんは、とても心を痛めました。そこで、藤本さんは、そのような子どもたちを自分のお寺で育てることにしたのです。そして、さっそく３人の子どもを連れて、長野県のあるお寺に帰りました。その後、育てる子どもたちの数が少しずつ増え、２０人、３０人と多くなっていきました。ところが、ある日、玄関を見ると、脱ぎ捨てられたはき物が折り重なったり、あちらこちらにバラバラになったりしていたのでした。それを見た藤本さんは、また心を痛めてしまったのです。そこで、藤本さんは、子どもたちに「はき物をほっぽらかしにしておくと、また戦争になってしまうぞ」と教えたのです。これがきっかけとなって、藤本さんはこの詩を作ったのだそうです。

つまり、自分のはき物をそろえずに脱ぎっぱなしにするという行動は他の人がどのような気持ちになるのかということをまったく考えていないということを表しているのです。しかも、自分さえよければいいといった、自分勝手な考え方しかしていないということを表す行動だということです。反対に、自分のはき物をそろえることができる人は、心が穏やかで、自分の行動を冷静に考え、他の人がどのような気持ちになるかも考えることができる人です。しかも、そのような人は、他の人が乱した履き物を、黙ってそろえることができる人でもあるのです。

このように、他の人の気持ちにも考えを巡らせることができるようになれば、お互いに気持ちのよい生活ができるようになるのです。そうすれば、争いごともなくなって、きっとみんながお互いのことを思いやる、平和で幸せな世の中になっていくことにつながる、ということなのだと思います。

WBC で優勝した侍ジャパンの選手が使った球場のベンチ内がきれいなことや、宿舎のはき物が整然と揃えられている様子を伝え、**磐梯一小も「世界一　はき物がそろっている学校」にしましょう！**と呼びかけました。